

(5) 銅に関する化学変化について説明した文として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア. 酸化銅をガスバーナーでじゅうぶんに加熱した後、水素の入った試験管の中に入れると銅ができて、試験管の内側に液体がついた。この液体は、塩化コバルト紙の色を青色に変化させる。
- イ. うすい塩酸の中に銅板と亜鉛板を組み合わせて電極とした電池をつくと、銅板が一極、亜鉛板が十極となった。このとき一極付近では銅が銅イオンとなり、うすい塩酸中に溶け出していく。
- ウ. 試験管内の硫黄をガスバーナーで加熱し、発生した硫黄の蒸気に銅の金+金をかざすと、黄色の硫化銅ができた。硫化銅は銅原子と硫黄原子が結びついた化合物である。
- エ. 塩化銅水溶液中には十の電気を帯びた銅イオンが存在している。この水溶液を電気分解すると、陰極では表面に銅が付着し、陽極では漂白作用のある気体が発生する。

(エ)

↑

また
習っていないから。

ア... 塩化コバルト紙は水に濡れると
青色 → 赤色(桃色)に変化するよ。

イ... まだ習っていないところでした。
銅板が「十」になるそうです。

ウ... 黄色の酸化銅ってところかまろがい。
酸化銅の色は黒色だね。